

令和4年度総合教育会議会議録

日 時 令和4年6月29日（水） 午前10時 開会

場 所 東近江市立蒲生西小学校

出席者

市長	小椋 正清	副市長	南川 喜代和
教育長	藤田 善久	教育長職務代理者	篠原 玲子
教育委員	沖田 行司	教育委員	山本 一博
教育部長	大辻 利幸	教育部理事	沢田 美亮
管理監(学校教育担当)	栗田 一路	教育研究所長	宮居 伝
管理監(秘書担当)	中堀 智之		
学校教育課学校指導係長	上田 章子	学校教育課指導主事	北岸 紗千
蒲生西小学校長	野崎 典子	パイオニア専科指導教員	中村 隆秀
A L T	ヘンリケ ヤマダ		
事務局			
管理監(教育総務担当)	中西 美智代	教育総務課長補佐	池元 貴之

以上 18 名

開会

教育部長

皆さん、おはようございます。

本日は、令和4年度第1回総合教育会議に、お集まりいただきありがとうございます。

只今から、会議を始めさせていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます教育部長の大辻です。どうぞよろしくお願ひいたします。

早速ではありますが、はじめに小椋市長から、御挨拶をいただきます。

市長よろしくお願ひします。

市長

改めまして皆さん、おはようございます。

本当に暑い中、朝から30度を超えているようですが、昨日おととい梅雨明けが宣言されました。14日間という昭和26年に統計を取り始めてから最短の梅雨で水不足が心配されます。ダムの貯水、関東ほどではありませんが、ついこの間、水がいる時に50%を切った時がありまして、貯水率はそう心配することはないのですが、このまま雨が降らないと非常にやっかいな農作物への影響がでてくるかなという中でコロナも落ち着いてはきましたが、感染力が強いウイルスですから油断はできないということで、15日に県で対策会議があり、公式にステージ1に引き下げられて、感染症対策を取りながら、社会経済を動かしていこうと、その場その場に応じてマスクを外すということも考えていかねばならないとの動きになりました。先般、通学路の安全点検をして、180人くらい芝原の交差点で布引小学校に通学する児童に、2、3人に声をかけ「マスクしんどくないか。」と聞いたのですが、マスクを外す

市長

ということをおもひつきもしない、絶対にしていないといけないというように感じとりました。学校の先生方にしっかりと外す時は外す、ホントにこの暑さで熱中症になることの方が危険度が高いので、そのことを見極めて御指導をよろしく申し上げます。特に東近江市は暑さで有名なところ。この暑さに有名なところというのも観測計が蒲生にあります。せめて市役所の近くで観測されたら、そんなに記録はされないのですが、毎回毎回夏になると東近江市が滋賀県で一番高いと報道がされますので、辛いところがありますが、气象台の方には、東近江市の市役所のあるところの気温を図って欲しいとお願いしています。どういう経緯で蒲生になったのか、また、調べておいてください。

それともうひとつ大きな危機管理事案というのが、ロシアのウクライナへの侵略。これがもたらす影響というのは当初予想できないくらい広がってきまして、特に原油高がもたらすエネルギーだけでなく、穀物、本当に品薄になって値上がり激しく、7月になったら、お好み焼きも多分値上がりすると思われそうですが、とにかくすべての物価が上がってくる、給料と一緒に上がった方がいいのですが、給料が上がらず、物価だけが上がるという昭和40年代の後半の第1次第2次オイルショックと同じような状況が、起こる可能性があるということです。6月議会が無事に終わりました、学校給食の食材の値上がりに対して、緊急ではありませんけれども補助を上乗せするという事で、親の負担にならないようにやってきたつもりです。弱者、小さい子ども弱者ですけれども、コロナの経済対策が始まって、総力戦で組織をあげてどこで誰がどういう苦勞をしているのだろうか、何に困っているのだろうかと考え、できるだけ具体的に耳を傾けて経済対策をやってきましたが、でた結論は、基本的に東近江市は財政基盤が強いと感じました。やっている本人は大変ですが、倒産したとか夜逃げしたとか聞きませんし、そういう意味では財政力と言いますか、個人個人の所得を備蓄されているだろうし、商売をやっている人もそこまで窮地に陥っていないだろうなど、だから経済対策が次々と来ますけれども、どこにその財源があるのだと逆に国の懐を気にするような状況になっております。学校教育の中で子どもがすくすく育つ環境、これにお金をかけるということは今後とも、奇しくも未来への投資、こんなきざな言い方をしても駄目なのですが、子どもたちはきっちり守ってきっちり育てていくという大きな分野を教育長以下、教育関係者をお願いしております、日々の御苦勞にまづもって感謝を申し上げる次第です。

今日は、学習指導要領の改訂に伴い、小学校5、6年生において新たに「外国語教育」が教科になりました。これについて、私自身も興味のある分野ですので、ALTの活動とかどういう形でやっているのだろうか、特にパイオニア専科指導教員というのを全く知らなかったのですが、非常に期待しております、総合教育会議も現場でしっかり見ていただいて、教育行政のあり方を考える上でベースにしていきたいと思っておりますので、授業参観を楽しみにしております。教育委員の皆様を含めて、今後とも東近江市の教育行政のために一層御尽力を賜りますことをお願い申し上げまして、先生方も日常教育現場で大変ですが、子どものためにということで、子どものためにということは、東近江市のためにということにイコールです。どうか頑張ってください。そしてこの夏、この暑さやコロナで一人の犠牲者も出たくない、そういうことも含めて、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

教育部長

ありがとうございました。続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきたいと思ひます。教育長よろしくお願ひします。

おはようございます。今年度の第1回総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。

コロナ禍の中での新年度、3回目を迎えたわけですが、1学期においても、修学旅行や音楽会、運動会、体育大会など様々な行事が計画され、コロナの感染状況も比較的落ち着きを見せていることから、各校においては特に大きな混乱もなく授業を計画通り進めていただいています。

マスクの着用についても、授業では比較的、徹底した形で外すように指導が行き渡っていますが、登下校など授業以外の場面では、なかなか徹底は難しいのが実情です。しかしながら、ここきての急激な気温の上昇に伴いまして、多くの子どもたちもマスクを外すようになってきたかなと校長からも報告を受けているところです。まだまだ、着けている子どもたちが少なくないように思っておりますので、もう少ししっかり対策していく必要があるのかなと思っております。私は天気の良い日は、自転車で通勤しているのですが、この4月から孫が1年生になりましたので、孫の集団登校について、途中の県道を渡る交差点まで付き添うようにしています。ちょうど、その交差点の手前に神社の森があり、日陰があるので、子どもたちはそこで2、3分休憩をとって水分補給をします。しかしながら、そこ以外は、ほとんど田んぼの真ん中で全く日陰はなく、その中を子どもたちは暑い中を毎日通っているのを側にいると非常によくわかる。月曜日など荷物の多い日などは、本当に1年生の子どもにはかわいそうだと思いながら連れ添っているわけですが、また、学校に着くと疲れた中、先生方は学びに向かわせてくれるような状況です。御苦労も大変なものがあるなと思っております。

教育委員会では、能登川地区の小学校通学区域審議会の答申を受けました。このことについては、教育委員会にも市長にも、概要を御報告申し上げたとおりですが、この答申に沿って、地域と話を進めたいと思っております。なかなか自治会の扉が開かないので困っているところです。しかしながら、これについては粘り強く、取り組んでいくしかないものと思っておりますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

さて、今回の総合教育会議のテーマは、小学校の外国語教育についてです。私は、英語の授業は大の苦手でした。でも、最近、学校訪問をさせていただきますと、子どもたちは小学校で行われている英語の授業を大変楽しそうに受けているなあと拝見しております。特に今日、指導をしてくださる中村隆秀先生の授業は、大きな声で発言し、本当に楽しそうに受けています。

今、子どもたちは聴くことを中心に英語に慣れ親しみ、自分の思いを英語で伝えるという事に取り組んでいます。私たちの時代の英語学習は、暗記中心で、自分の考えを英語で話すなんて言う事はほとんどなく、書かれていることを覚えるということが本分でなかったかというのが私の印象です。

私は、3年前にカナダのテーバー町に市内の中学生10人近くと一緒に東近江市友好親善使節団として交流をさせていただく機会を得ました。

その時は中学生がどんな交流をしているのか、どんなことを感じ取ってくれるのかを大変興味があったものですから、自ら手をあげて参加させていただいたところです。しかしながら、英語が話せない自分が、自ら手をあげて参加するというのはハードルが高いという事を感じたところでもあります。

しかし、これからの時代、英語は大切だと思っております。先ほど、市長が言われたよう

教育長

に、ウクライナ情勢をはじめ、エネルギー問題などそれぞれの部門で国際協調が重要視される時代において、自らの主張をしっかり自分の言葉で相手に伝えるということができないと、生き残れない時代になってくると思っていますし、なかなか正論だけをかざしても相手を受け入れられないそのような時代になるんだろうなと思っています。

言葉だけでなく、感性も磨き、相手の思いを感じ取れる人に育ってもらいたいと思っています。外国語教育の重要性もますます高くなっていくのかなと感じています。そんなことの第1歩として、この外国語教育を見せていただきながら、今後、こういった形でつながればいいかと思っていますのでどうぞよろしく申し上げます。

教育部長

教育長ありがとうございました。本日の出席者はお手元の座席表のとおりでございますが、本日、急きょ青地委員が御欠席と連絡が入りましたので、御了承いただきたいと思えます。また、本日は、南川副市長にも御参加をいただいています。どうぞよろしく願いいたします。

本日の資料について、確認をさせていただきます。

管理監（教育
総務担当）

（資料確認）

教育部長

それでは、議事に入らせていただきます。進行につきましては、会議要綱第4条の規定により市長からあらかじめ指名を受けていますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。以後、着座で失礼いたします。

本日の総合教育会議では、「小学校外国語教育について」を議題にしています。後ほど、授業参観をして、子どもたちの学習の様子を見ていただこうと考えています。議事がスムーズに運びますよう皆様の御協力をよろしく申し上げます。

では、次第に従い進めさせていただきます。はじめに、蒲生西小学校 野崎校長から御挨拶いただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

野崎校長

失礼いたします。蒲生西小学校校長の野崎です。どうもありがとうございます。

本校児童数現在 390 名です。学級数は4年生だけが3クラスで、1年生から6年生までが2クラス、支援学級のうち知的の学級が2クラス、自閉症、情緒の学級が2クラスで、17学級でスタートしております。校舎を一昨年度、改修していただきましたので、大変良い環境の中で学習を受けさせていただいています。各クラスのスクリーン、プロジェクターについてはほぼ毎日稼働させていただいています。個人的にはLEDにさせていただいたので、体育館も含め明るくて良かったと思っています。時々、生き渋ったりする子どももいますが、長期で休む児童はなく、みんな学校が好きで、先生が好きで、一生懸命授業に取り組んでいます。学力的には市内の真ん中くらいでして、徐々に引き上げていけるように頑張っています。

本日見ていただく英語科ですが、中村先生には3年目のパイオニアをしていただいています。ただ、本校の勤務は2日で、他の学校とかけもちですので、機長のような荷物をもって毎日勤務をしてくださっています。

見ていただきます5年生については、3、4年生と外国語活動ということで、年間数十時間、英語に触れてはきていますが、本格的な学習としては今年度より初めてです。5年生は

野崎校長

30人で教室はいっぱいの状態でやっております。コロナ禍で、コミュニケーションが制限されていましたが、ペアワークくらいまではやっている状況と聞いています。

ALTについては、恵まれていまして、子どもたちが好きで、子どもたちと一緒に活動してくれるALTに来ていただいています。今年度来ていただいているヘンリー先生は、在日歴は長い方で、休み時間に子どもたちと一緒に遊んでくれたりもしますし、ポルトガル語も話せますので、フレンドリーにいただいています。私も、帰りの下校指導に時々誘って、一緒に立っていると、子どもたちは英語であいさつしてくれます。

本市の方針で外国語の授業には担任が入ることになって、いつもは担任が入っているのですが、ちょっと体調を壊しましたので、今日は代わりに教務が入っております。申し訳ございません。

教育部長

先生、ありがとうございました。続きまして、小学校外国語教育について、初めに学校教育課 北岸指導主事が概要を説明します。

北岸指導主事

学校教育課の北岸です。お手元の資料を御覧ください。それでは小学校外国語教育について説明させていただきます。

小学校における英語教育は平成10年「総合的な学習の時間」に行われる国際理解教育の一つとして始まりました。それから10年後の平成20年、多くの学校で外国語活動が行われている実態を踏まえ、教育の機会均等・中学校への接続の観点から、各学校判断に委ねられていた英語活動が、高学年における外国語活動として位置付けられるようになり、週1コマの授業が実施されるようになりました。グローバル化が急速に進む中、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となり、平成29年3月の学習指導要綱の改定に伴い、中学年で週1コマの外国語活動を、高学年では週2コマ「教科」としての外国語が令和2年度より全面実施となりました。新学習指導要領に基づく小学校での外国語教育は今年で3年目を迎えます。それでは、新学習指導要領は、いったいどんな狙いのもと変わったのでしょうか。旧学習指導要領において、高学年で週1コマの外国語活動をしてきたことで、小学校の間に、音声を中心に英語に慣れ親しむことができ、中学校入学時の学習意欲が向上した成果がありました。

一方で、次のような課題がありました。①学年・学校段階が上がるにつれて学習意欲が低下すること。②小学校高学年で「読む」「書く」も含めた言語活動への知的欲求に応えられていないこと。③小学校で「音声中心」で学んだことが、中学校での「音声」から「文字」への学習に円滑に接続されないことなどの課題がありました。これらの課題を解決することをねらいとし、新学習指導要領の改訂がされました。

これは、「外国語教育の抜本的強化のイメージ」です。左側が旧学習指導要領での学習を、右側が新学習指導要領での学習を表しています。それでは、小学校の部分に注目していきたいと思います。

新学習指導要領では、「外国語を使って何ができるようになるのか」という観点から、小学校・中学校・高等学校において、一貫した5つの領域別の目標を設定しました。小学校においては、中学年でまず、気づきを促すインプットである「聞くこと」や「話すこと」を中心に、発達段階に応じた身近な題材のもと、英語の音声に慣れ親しませることを大切にして

います。様々な相手と互いの考えや気持ちを伝えあい、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験させ、外国語学習への動機付けを高めます。高学年では、中学年での「外国語活動」と同様、気づきを促すインプットを大切に、「聞くこと」「話すこと」の言語活動を重視しながら、中学校につながるために、段階的に「読むこと」「書くこと」を指導事項に加え、指導に系統性を持たせました。ここで大切なのは、高学年では、あくまで音声で十分に慣れ親しんだものについて、推測して読んだり、書き写したりしながら「読むこと」「書くこと」に慣れ親しませるということです。

つまり、「新学習指導要領の最大の特徴は」と言いますと、「言語活動を軸に置いている」ということです。言語活動とは、学習指導要領では、「実際に英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うこと」として捉えられています。これまでも、このようなことを大切にしてきましたが、「言語活動についての理解や練習で授業が終わってしまっていたのではないか」という反省から、今回の改訂では、子どもたちに自分の考えや気持ちを相手に伝えあうような、英語でのやり取りを活発にさせることが必須だと言えます。そのためには、まず教員が、英語によるコミュニケーションを楽しむことが大切だと言えます。

皆さんは、英語に対してどのような意識をもっておられますか。挙手をお願いします。得意だという方。ありがとうございます。苦手だという方。ありがとうございます。今の挙手の様子からも一目瞭然ですが、20歳から59歳までの成人を対象にした「英語に関する意識調査」によると、約6割強の日本人が英語に苦手意識を持っていることがわかります。それは、小学校教員においても同様のことが言えるのではないのでしょうか。私も英語に苦手意識を持っている一人ですが、多くの小学校教員が、外国語教育が中学年からされるようになり、このような思いを抱いていたと想像されます。

文部科学省で昨年度調査された「英語教育実施状況調査」の結果です。高学年における外国語科を担当する教員の内訳を調べたものですが、青色は、担任が授業をしている割合を指しています。黄色は本日授業公開をさせていただく専科教師による授業の形態、その他は交換授業による割合を示しています。担任による外国語科の授業の占める割合が、東近江市が全国平均より12%少ないのは、教科化による教員の負担を考慮し、専任教員を高学年に配置しているからです。

中学年では、このように全国平均を見ても、担任負担が多くなっていることがわかって思います。先ほどと比較して、東近江市の担任負担が全国平均より19%多いのは、先ほど説明させていただいたとおり、専科教員の配置を高学年に置いたことが理由の一つに挙げられると思います。このように、低学年以外の多くの担任が苦手であっても、外国語の授業をしなければならぬ状況に置かれているということです。そこで、その不安を少しでも解消するために本市では、「児童生徒の英語力向上」、「教員の指導力・英語力の向上」を二つの柱とし、外国語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成、外国語を通して自分やふるさとについて語ろうとする児童生徒の育成、つまりはグローバル化に対応できる人材育成を目指して、平成29年度より外国語教育推進事業を進めてまいりました。

それでは、東近江市外国語推進事業の二つの柱、「児童の英語力向上」と「教員の指導力・英語力向上」について詳しく説明します。

まずは、①の「児童の英語力向上」についてです。

児童の英語力向上のために、ALT（外国語指導助手）を派遣しています。今年度は、株

式会社ボーダーリンクから11名のALTを全22の小学校に派遣し、3年生以上の全学級においてTT（チームティーチング）による指導を行っています。

ALTの指導力向上のために月に1回ミーティングを持ち、授業研究会やアクティビティの研修、情報交換等を行っています。ボーダーリンクから研修トレーナーを派遣して、毎月具体的で内容の濃い研修を行っています。

二つ目はイングリッシュ・デイの開催です。小学校は、1・2年生を対象に、毎年秋に河辺いきもの森で行っています。子どもたちがALTと一緒に自然と触れ合いながら、英語に親しむことを目的に企画運営しています。プログラムの内容は小中学校のALTが協力して考えています。

今年度は、小学生を対象に、10月15日に午前・午後の2回に分けて開催を予定しています。毎年参加者から好評を得ている事業で、昨年度の参加者からは、「はじめは緊張していたけど、みんなと英語で話したり、みんなと過ごせたりして楽しかった。」「外国の人と友だちになれてよかった。また遊びたい。」などの感想をもらっています。

次に、二つ目の柱「教員の指導力・英語力向上」のための取組について説明します。

各校でALTと外国語主任を中心とし、夏休みや放課後に校内研修をしています。スモールトークや児童の発言に対してどんなリアクションの言葉があるかなど、即実践で生かせる研修をしています。

二つ目は、教育研究所による夏季研修会の開催です。毎年、夏休みに1回研修会を開催しています。外国語が教科化になり、評価が求められるようになりました。昨年度は、「小中学校における外国語教育の指導・評価の在り方」について講話いただきました。

三つ目は、各中学校区での取組の推進です。小中の滑らかな接続を意識し、本市では小中連携から小中一体化を目指しています。中学校区ごとに1・2学期に小中学校1回ずつ授業公開・研究会を行い、3学期は中学校英語科教員による小学校6年生とのコラボ授業を実施しています。本市が一番力を入れている取組で、昨年度の文部科学省の調査によると、英語教育における小中連携の実施状況は、本市は全国平均を大きく上回る100%の実施率を上げています。旧学習指導要領で課題となっていたなめらかな小中への接続の改善に努めています。

四つ目は、本日授業公開をしていただくパイオニア専科教員による授業研究会の開催です。平成29年より始まったプロジェクトで、今年度は3名の専科教員が11校の学校で日々研究実践を行っています。平成29年から累計8名の専科教員によって、研究実践の成果を市内の教員に普及しています。外国語を通して、人とのつながり、人とのかかわりを楽しめる児童の育成を市内の教員と連携し、今後も進めてまいりたいと思っています。

以上で私からの説明を終わります。御清聴ありがとうございました。

それでは、今日の参観授業の説明をさせていただきます。本日の授業者は、パイオニア専科教員4年目の中村隆秀先生です。5年1組の授業を参加していただきます。単元名は「What do you want to study?」「自分のなりたい職業や学びたい教科について相手にわかりやすく伝えることができること」をこの時間の目標にしています。学習内容は御覧のとおりです。先ほど説明させていただいたとおり、小学校の外国語教育で大切にしている「自分の考えや気持ちを伝え合うような、英語のやり取りを意識した言語活動」に注目して参加いただけたらと思います。以上で、私からの説明を終わります。

教育部長	<p>ありがとうございました。この後、授業参観に移らせていただきますが、少し時間がありますので、今の説明について、御質問等ありましたらどうぞお願いします。</p>
市長	<p>発声についてはどのように教えていますか。英語は、複式呼吸にちょっと声を乗せるけど、日本語の場合は喉だけでしょ。</p>
北岸指導主事	<p>小学校では発音までは丁寧な指導は行っていません。そこまでは求めていませんのでしていませんが、本当に話せる力をつけるには早い段階で必要なことですよね。</p>
市長	<p>声の出し方が基本的に違うので、全然わからない。僕の秘書をやっていた、大学院生でも7割しかわからない。いきなりニューヨークの早口の英語を聞かされると、絶望感に打ちひしがれる。サミットの護衛でテキサスに行っていて、テキサス商工会議所の方と毎晩食事等をしていたのですが、僕の英語が下手なのでゆっくり話してくれているのかと思っていたのですが、領事館の方曰く普通だと。アメリカの国内でも全然違います。そこへスラングとかが入ってくるともうわかりません。とても速いし、Tなんて発音しない。子どもはこれを聞けるか言えるかなと。</p> <p>発音に関しては、あんまり教えていないと。聞くということを重視していると。ALTのわかりやすい英語ばかりを聞いていると、実際にアメリカ人にあった時に聞きとれないということが心配です。たまには生きた英語をALTに話してもらおうということね。</p>
北岸指導主事	<p>スモールトークという形で、教師とALTが話すという時間も設定されています。</p>
市長	<p>わかりやすい英語ではなくて、本当の日常会話をね。難しいけどね。 沖田先生はいかがですか。</p>
沖田教育委員	<p>私も子どもを連れて1年間行っていましたが、一番早くなじんだのは子どもです。発音が一番うまい。次にうまくなったのは妻で、次に私です。全然変わらない。大学にいくと、皆さん日本語で話してくれるのでね。帰る頃には、子どもと妻は綺麗な英語を話していました。子どもが使っている英語がわからなかったです。聞いたことが綺麗な発音になっていきますからね。テレビとか英語の漫画とか通して学ばせる方が効果は高いですね。</p> <p>ラグビー部の学生が全然英語がとれないと。ラグビーの言葉って全部英語なんですよ。何かをしながら英語を学ぶということが重要で、語学を勉強するということは、英語学ではなくて日常的に使うと。私の両親がアメリカにきて、びっくりしたのは、みんな英語をしゃべっていると。アメリカ人はみんな頭が良いと思ったみたいですね。</p>
市長	<p>僕らの時代とは違って、生きた英語を教えるようになってきたなと思いますね。かといって、文法なんていらぬ、ともいえないし。代わりに日本語がおろそかにならないかな。日本の文化は日本語を通じて蓄積された文化なのでね。文化がスポイルされることがあってはならない。</p>

管理監(学校教育担当)	新しい学習指導要領では、国語科のコマ数は減っていません。英語が増えただけです。
教育部長	ありがとうございます。それでは、授業参観に移らせていただきます。3階の外国語教室に移動しますので、野崎校長に案内していただきます。
教育部長	<p>(授業参観)</p> <p>皆さん、お疲れさまでした。会議を再開いたします。中村先生とヘンリー先生には3時間目の授業が終わり次第、この会議に入っていただきたいと思っています。</p> <p>それでは、北岸指導主事からの説明、授業の様子を御覧いただいた感想や御意見等をお聞かせいただきたいと思います。まずはお一人ずつお聞きしたいと思います。山本委員からお願いします。</p>
山本教育委員	初めて見させていただいたのでなんと印象を申し上げていいかわからないのですが、小学校の英語の授業はこういうものかと驚きがまずありました。それと、マスクをしているから、よくあれで授業が成り立つなという感じがしました。会話の授業だから口の動きが見えた方がいいのではと思うのですが、どの教科でもそうかと思いますが、英語よりもそちらの方の印象が強いです。
教育部長	<p>ありがとうございます。今日は初めて授業を見られる方が多いのかなと思います。私たちも初めて見ました。いろんな感想をお持ちいただいたと思います。マスクについては、なければ更にわかりやすいのに、という感想を持たれたと思います。</p> <p>では、篠原委員お願いします。</p>
篠原教育委員	家で塾をしていますが、英語を教えているのですが、今の授業を聞いていて、5年生で聞いたり、発音もそれぞれのレベルがありますが、上達していくのかなと思いましたが、中には聞いたことをそのまま発音しにくいお子さんもいて、英語耳ができていくかどうかの問題ではなくて、頭で理解するのに、音声から理解するのが苦手な子がいて、私も文字を見ながら理解することが多くて、今は繰り返し聞いてしゃべっているだけというか、みんなが言っているマネをしているだけというか、どこまでそれが身につけているのかなと少し疑問があります。中学生の子が、文法はもちろん、読むこともなかなか定着しないお子さんに対して、そういう子がいるというのを見つけて、どうアプローチしていくのかということ、考えていかないといけないのかなと感じていました。今の授業は中村先生がすごく練ってされている授業だと思うのですが、中村先生は毎回来られるのですか。
北岸指導主事	5、6年生には毎回来られます。
篠原教育委員	中村先生とヘンリー先生で今のような授業をずっとされているんですね。
教育部長	この御意見に対して、上田先生、何かございますか。

上田学校教育
指導係長

あえて5、6年生は文字を出さずに指導をさせてもらっているところかと思います。段々子どもたちの中で、あれだけの長い文を、今日も3つ覚えて伝えるというのはなかなか難しいので、そこで文字の欲求が出てくるのかなと思います。5年生の6月で教科になって3箇月なので、徐々にそういう指導はされていくのかなと思います。

沖田教育委員

日本の外国語教育は、明治以来、翻訳がメインでコミュニケーションというのはあまりなかったと思います。読めるけれども、話すことができないと。今の大学生もそうです。私が驚いたのは、同志社小学校ができましたが、売りは外国語教育です。ネイティブの先生が教えるんですよ。かけているお金も違います。授業を見に行きましたが、同じ事が公立で行われていて、非常にびっくりしました。先ほど市長に、これはお金かかっているでしょうねと言いましたが、手間もかかっていると。ただ、学習指導要領の中で、全体の学習の中で、何かが規制がされているのか。あるカリキュラムの時間数を減らしているのか、それはどうなんでしょうか。

北岸指導主事

教科を減らすということはございません。ただ朝の学習で15分のコマが毎日あるのですが、3回したら1コマとカウントして、例えば、漢字の学習を3回したら国語とカウントするなど現場で工夫して時間を作っています。

沖田教育委員

先ほども言いましたが、我々は読む英語しか知らないもので、聞いていても不安なので、英語で書いてくださいとお願いするのですが、それはかなり問題であると聞きました。子どもは耳から聞いたことをそのまま覚えていくと。それが一つの意味になっていくと。そして文法を置き換えていくと。コミュニケーションのツールとしての話せる英語にするには、色々方法はあるかと思うのですが、じきに英語で置き換えていくというのが、残念だと思いました。中学校になったら、今まで覚えてきたものが単語で出てくると。あまり焦ってしまったら、せっかく外国語が耳に入っているのに、翻訳する英語にならないように、配慮していただきたいなと思います。

管理監(学校
教育担当)

今おっしゃった教科についてですが、10年に1回、学習指導要領が改訂されるのですが、各教科の担当でコマの取り合いがあります。今回、英語が入ってきた時も、どこかを減らさないといけないと大議論になりました。国語科のコマ数が一番多いので、ターゲットは国語になったんですが、やはり日本語教育は大事ということで、そこは減らせないと。日本は特別活動とって、行事がたくさんありますので、今後は減らしたらどうかという話もありましたが、行事はみんなでひとつのことで作っていくという日本独自の教育なので減らせないと。ゆとり教育で始まっていたことがなくなってしまって、今回、いっぱいいっぱいのコマ数になっています。一方では教員の負担も増えているという事実もあります。

「話す」と「書く」ことについてですが、人間生まれてからのスタートは何から学んでいくかという議論になった時に、文字から入るのではなくて、言葉であると。文字に親しむときに、我々の時代はABCを書くところから始まりましたが、慣れ親しむために音声から入っていきこうということで、3、4年生は音声中心でスタートして、5、6年から書くというように発達段階に合わせています。

教育部長

ありがとうございます。教育長お願いします。

教育長

ああいう雰囲気英語を学んでいるというのは、少し前から何回か見させてもらっていたのですが、単語ベースから始まっていると思いますが、子どもたちはいきいきと取り組んでいるなという印象があります。ただ、中学校は今までに近い授業でやっていますので、うまくつながっていないという印象を、小学校と中学校の授業の様子を見ると感じます。ですから、つまずいたりして、英語が嫌いだなと感じるところが中学校になると出てくると。せっかく小学校で楽しく学んでいるので、その形がうまく子どもたちにつながるといういいなと思います。

教育部長

小学校から中学校へのつながりやギャップについて何かありますか。

上田学校指導
係長

新しい学習指導要領では、中学校の教科書にユニットゼロという単元ができて、小学校から中学校へのつながりを意識した音声中心の単元が1年生の4月から6月くらいまでで作られています。中学校の教員も意識して、小学校でスモールトークをしているのですが、それをまねしながら、中学校でティーチャートークという形で、先生の音声を聞かせながら、子どもたちとも会話をしながら、というのをふんだんに取り入れるようにはさせていただいてまして、中学校の教員への研修も十分に進めながら、やっていきたいなと思っています。課題ではあります。

教育部長

ありがとうございます。副市長、御感想をお願いします。

副市長

さっき聞いたように5、6年生は週に2コマということで、ちょうど今3箇月なので単純に計算すると24回終わっていると。でも、お休みとかもありましたので、18回くらいで今日の話になっていたのかと思うのですが、今日の授業については、つまりユニット3というのは、今日初めてですか。

北岸指導主事

3時間目くらいです。

副市長

3時間目ですか。少し安心しました。初めからあれでやっていくのか、すごいなと思ったので。楽しくやっていたので、良いなと思いました。ただ、なんでもそうですが、全員が同じ形にはならないので、はっきりと話している子とだまっている子がいるのかなど。それは他の科目でもそうですが、仕方ないことかと思いました。

教育部長

ありがとうございました。フラットにならないという御指摘がありました。それについてなにかありますか。

北岸指導主事

中村先生はあれほどのスキルを持ちながら、毎日授業改善をされていて、特に今年は特別支援の子がなんとか英語に対して苦手意識を持たないように、JapaneseとEnglishとかのカードを多用されて、少しでも子どもたちの理解が進むように、工夫を凝らしながらやってい

北岸指導主事	ただいています。
教育部長	ありがとうございます。市長、何かございますか。
市長	今日見せていただいて、自分自身の勉強にもなりました。疑問のひとつは、例えばDaily question について、ボキャブラリーは事前にマスターしているのかな。What do you want to do? という中で、ひとつひとつの言葉の意味については教えているのかな。
北岸指導主事	今日は習った言語を使ってQuestionをされていました。練習を含めた会話になっています。
市長	<p>もう習っているんですね。もうひとつ勉強になったのは、算数はmathで定着しているんですね。P.E.は体育、Physical Education なんです。それで子どもたちは覚えているんですね。お金をかけても効果的に本人たちの能力の向上につながればよいのだけれども、心配なのは興味を示す子と示さない子がいて、格差が非常に広がる場面でもあるなということです。別に試験で合格、不合格はないのだけれども、英語に対する嫌悪感を持ってしまわないように。音楽でも同じで、小学校の時に音の悪いプレーヤーでドボルザークの「新世界」を聞いても良いと思わないでしょう。音楽というのは心地の良い物なんです。それを小学校、中学校でスポイルしてしまうんです。英語は楽しいものだけど、もう英語が嫌だというアレルギーが一番怖いんです。小学校から始めるにあたって、先生方に一番気をつけて欲しいところです。入口で嫌悪感を持つとなかなか興味を示さないし、嫌になってしまいますので。ひとりひとりの子どもたちの様子を見ていましたが、比較的きちんとしています、嫌々やっている子もいますよ。そういう問題もあると思います。</p> <p>英語に関して学習指導要領が変わって、こういうところに変化が出るのかと、いい勉強をさせていただきました。これが進化したらどうなるのかなと思いました。話を聞くということも大事になんですが、英語力は読解力、読みこなす力です。例えば、ニューヨークタイムズとか非常に難しく理解できないけれど、読み続けていると、ジャパントゥタイムズとかは理解できるようになってきます。高校の時にシェイクスピア英語を習いましたが、読みこなすことによって英語力がついてきます。どこを目指すのか。挨拶とか日常会話レベルでとどまってはいけないと思います。非常に勉強になりました。特に、中村先生の授業は素晴らしかったです。ありがとうございました。</p>
教育部長	ありがとうございました。中村先生とヘンリー先生がお越しくございました。これからは、皆さんにそれぞれの御意見に対して、発言いただきたいと思います。まずは篠原委員お願いします。
篠原教育委員	小中学校の連携について話を聞いていましたが、小学校で習う単語が600から700語、中学校で1600から1800語というふうにもものすごく増えたんですけど、小学校で習う単語がどこまで「書き」をやっているのか。単語を書けるかどうか、今日はわからなかったのですが、習ったのは耳からと目からは習っているかもしれませんが、中学校の中間テストでいきなり書かされるんですね。今まで覚えようと見てきていなかったのに、いきなり書かされるという

篠原教育委員	<p>ので、五個荘中学校しか知らないので他の学校はわかりませんが、ものすごくギャップがあって、子どもたちがとても落ち込んだのです。嫌いになってしまうというのを無くそうとやってきているのに、つまずきが出てくるというのはもったいないと思います。できれば小学校で習う時にある程度書くことも、もう少しやっていかないといけないと思いました。</p>
教育部長	<p>どうでしょうか。</p>
北岸指導主事	<p>ある程度読めるようになったものを、小学校でも自分で見ながら書くということをしていきます。見ずに書くということを目指しているわけでないのですが、書き写すという段階を踏んで、発達段階に合わせて学習しています。今、おっしゃってくださったように、小学校、中学校の壁がなかなか難しいところではあるのですが、中学校は出口の入試体制が変わらないことには文法とかを教えないといけないというところがあるので、小学校で大事にしていることが中学校でも生かされるように、これからも中学校との視点を大切に進めてまいりたいと思います。貴重な御意見ありがとうございます。</p>
教育部長	<p>中村先生とヘンリー先生も入っていただいていますので、先生方に質問等がございましたら、お願いします。副市長いかがですか。</p>
副市長	<p>我々の年代は、中学校に入った時に、ABCを小文字からノートに書いて、というところからスタートしましたが、今は耳で聞きながら、中村先生は楽しくやってくださっていますが、もう一度、中学校でそのスタートからやらないと、おっしゃったように書けない、ということになってくるのではないかなと。その辺のカリキュラムはどうなっていますか。</p>
中村先生	<p>5、6年生に外国語が教科に入りまして、おっしゃっていただいたように音声重視で音から、耳から入れるということがポイントになっています。指導主事がおっしゃったように写すとか、なぞる、ということしかしていないので、中学校でやるような自分で作る自由英作文、英語で言わせてもらおうとCreative Writingといいまして、自分で文を作って書くところまで、なかなか到達できません。小学校では、アルファベットをなぞったり、書き写したりするとこまではやっていますが、何枚も書くとか、何回も書くとか、ワークブックでやったりしています。やっぱり音声重視ということで、自分で言ったことをなぞるとか、中学校の先生にお願いしたいのは、私はもともと中学校の先生でしたので、中1ギャップを作らないためには、文字と音の連結をさせて欲しい。いきなり中学校で単語テストをすると、子どもたちは絶対落ち込むということを私はわかっていますが、中学校の先生はわかっているじゃない。私が中学校に言いに行きたいなと思います。現に朝桜中学校の先生には、3月の末に言いに行きました。この子たちはまだ書けませんよと。現中1の先生はそれを受けて、一学期から単語テストを早速するようなことは、していないと思います。小学校からの連携ではなくて、接続を目指しているということが全市において大事だと思いますので、我々のように小学校からの発信が大事な、と思っています。以上です。</p>
副市長	<p>子どもたちが持っていた本には、例えばwoodとかyouとか書いてあるのですか。</p>

中村先生	<p>書いています。書いているので、今日見てくださったと思いますが、言い方がわからない時は、子どもたちは自動的にそのページをあけて、これどういうの、どう読むのというのですが、読むのではなくて話すですから、文字を見せて言わないといけない子に対しては、文字をおさえて言います。リズムで音から、耳から入る子は、I want to be a baker と教えますが、文字があった方がわかりやすい子はその子に合わせて文字をおさえて言って、隠して言わせて、言えたね、としています。小学校段階では、音と文字の連結がさほど出来ていない状態ですので、中1の担任にぜひ言いたいのは、単語テストの前には、単語の音と文字の連結をしてからと。例えばbean、豆はこう書きますが、beenで書いてあると、私は音が取れているからマルなのに、なんで豆はbeanになるのかということを、しっかり練習させないといけないということを、中学校の先生に言いたいですが言う機会がないです。</p>
教育部長	<p>御自由に御発言ください。</p>
沖田教育委員	<p>正しい発音の仕方はどれくらいされていますか。</p>
中村先生	<p>小学校では、標準的な発音はモデルとしては示しますが、求めてはいません。Convenience Store はコンビニエンスストアでも、一応受け入れています。発音指導も中学校に委ねています。ただ、モデルを聞かせる時は、ヘンリー先生の正しいモデルを聞かせます。段々近づいていけばいいかなと思います。聞いて、まねしようとしていますので、まねして上手に発音する子も増えています。それで、発音が上手いから成績がいい、悪いからダメということではないです。</p>
山本教育委員	<p>3箇月経っていますが、今日の授業は僕の印象では、ハイテンポというか、リズム、音とおっしゃっていましたが、とてもテンポが速いなと。最初の授業はどういう感じで入られるのですか。</p>
中村先生	<p>本当のゼロ時間目は、外国語の学習の仕方を日本語を使って説明して、物の配布とかいろんな細々としたオリエンテーションをしますが、次の時間からはユニット1から入って、だいたい今日みたいな流れで、音声を重視しています。今日はスピードが少し早かったかも思われませんが、特別支援が必要な子にとっては、スピードをあげるとわからない子もいると思うのですが、速さはもう少しゆっくりしたペースです。今日は緊張していましたので。</p>
篠原教育委員	<p>今、先生が耳で聞きとりにくい子には、ひとつひとつ指でおさえて、というのを聞いて、安心しました。他の小学校でもされているならありがたいなと思います。</p> <p>5、6年生は成績がつかますが、どういう基準でつくのですか。テストがあるのですか。</p>
中村先生	<p>はい。あります。単元テストという、小学校特有の既製品ですが、表裏カラーのテストを使います。もちろん教える時にはそのテストを見てから、どういう問題が出ているのか知った上で指導しています。それと、今日はやらなかったのですが、次の次くらいにスピーキングテストをしますので、一人一人を担当の先生とヘンリー先生に見てもらって、最初にやったダイアログから必ずやります。ユニット8までありますので、8回やります。6年生は8</p>

中村先生 回はすぎて、もうすぐ11回目をします。5年生はもうすぐ3回目です。単元テストと、スピーキングを合わせて、成績をつけています。

篠原教育委員 6年生になると、テスト内容は単語を書くということも出てくるんですか。

中村先生 6年生は写す、なぞるというレベルです。たとえば、higashiomiと書けるように、shiがヘボン式になるように意図的に教えました。6年生でもローマ字も大変ですので、3年生で訓令式を習っていますので、修正して、5、6年生ではヘボンに変えて写す。これは写すだけです。higashiomiくらいは自分で書いてみる。名前は自分で書ける、という感じですね。

市長 中村先生はいくつ学校持っておられるのですか。

中村先生 4つです。

市長 どこどこですか。

中村先生 ここと、蒲生東、蒲生北、湖東第一です。

市長 小学校によって違いはありますか。格差みたいなものを感じることはありますか。

中村先生 格差というよりも、学級の雰囲気は担任が作りますので、担任によりますね。違いはありますが、やりにくいことはないです。私は1時間目にルール作りをしますから。

市長 ヘンリー先生は、どちらの出身ですか。

ヘンリー先生 ブラジルです。97年に日本に来ました。

市長 ポルトガル語も話されますね。ブラジルのどこですか。

ヘンリー先生 サンパウロです。

市長 どうしてそんなに英語が上手いのですか。

ヘンリー先生 最初は中学校の時に英語を習いました。オンラインレッスンを受けたり、中村先生に教わったりしました。

市長 何年目ですか。

ヘンリー先生 日本は24年目くらいです。関東におりまして、4年ほど前に滋賀に来ました。東近江市はブラジル人の方が多くて、ブラジル人学校がありますので。

ヘンリー先生 ラチーノ学園とサンタナ学園ですよ。

市長 精神的にでもヘルプしていただけるとありがたいなと思います。卒業式は毎回行っているんですよ。ブラジルの学校と同じ雰囲気を作ってね。ブラジルに行ったような。

中村先生 うちの学校でもブラジリアンがいますので、大変助かっています。今日のクラスにも何人かいますし、ヘンリー先生はうちの学校には最適だと思います。

市長 副知事が御園小学校に見に来て、大変喜んでおられました。東近江市は外国人に対してきちんと取り組んでいると。私も家族連れでニューヨークに赴任したでしょう。子どもはE S Lに半年くらいはいかないと、現地校で授業についていけない。逆の立場でそういうことを充実させたいと思っています。大変だけど、学力テストも受けさせています。そういった問題もありますので、またタイムリーなアドバイスをいただきたいと思っています。今日は中村先生に感心いたしました。

教育部長 ありがとうございます。時間が参りましたので、この辺でいったん締めさせていただきたいのですが、最後に市長から一言お願いします。

市長 今日は皆さん、本当にありがとうございました。我々にとっても良い勉強、経験になりました。未知の体験をずっとやっていっていただけるので、これからの日本の英語教育の始まり、最初の出発点はとても大切だと思いますので、当事者の気持ちを忘れずにね。今日は担任ではなく教務の先生だったんですよ。担任の先生なら、もう少しアクションもちがっていたかもしれませんね。引き続き、充実した外国語教育を続けていただきたいなと思います。ありがとうございました。

教育部長 ありがとうございました。教育長から一言お願いします。

教育長 御覧いただいたとおり、全員がフラットな状態というわけにはいきませんが、他の授業と比べますと、元気に授業を受けているなという印象をもちました。中村先生に引っ張っていただいています。目的というか、子どもたちに何を学ばせるか。最終的には話せるというところに、会話が成立するところまで結び付けるためには、何が必要か。中村先生からたくさん中学校の教員に対してのお話をいただきました。私も中村先生から初めてそういうお声をいただきましたので、ぜひ聞かせていただく場面を作って、ちゃんと伝えていきたいと思っています。子どもたちにはうまく接続して、とにかくイヤという感情を植え付けないようにしていきたいなということを感じました。

教育部長 ありがとうございました。本日の議題は以上でございますので、これを持ちまして、令和4年度第1回教育総合会議を閉会いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。

会議終了 午後0時12分